

実践事例

(郷土) 大樹寺小学校 3年

家康の歩みを探る

4月～2月(25時間)

1 ねらい

本校の3年生は、1年生のころから、運動会や自立の日、生活科等の学習を通して、家康の生き様や大樹寺との関係を少しずつ学習してきており、家康という人物に関しては、他校の児童より、なじみ深く、価値を知っている。「登誉上人」「祖洞和尚」「厭離穢土 欣求浄土」という本校の3年生児童が意味まで当たり前のように知っている言葉は、他校の3年生は、ほとんど知らない。

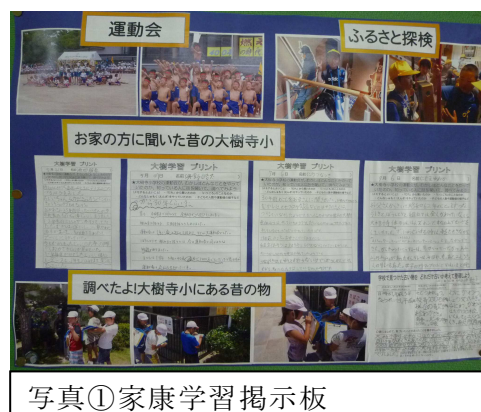
知識として、家康と大樹寺の関係を知っている児童ではあるが、さらにもう一步深めるため、見学を中心とした調べ学習を多く行うことで、より大樹寺や郷土に対する愛着を育てたいと願った。

2 実践の概要

(1) 教師の支援

本校では、継続的・系統的なカリキュラムに基づく、家康学習を全学年で行っている。教師が系統的な家康学習の学年別段階を設定し、教科・領域・学校行事と関連させた年間計画を作成している。発達段階に応じた学習対象への継続的な関わりをめざしている。

また、学習の歩みをまとめたものを「家康学習掲示板」に貼り、全校児童が各学年の学びを共有することができるようにしている。



写真①家康学習掲示板

(2) 具体的な手立て

<手立て1>家康に関連する地域素材の教材化

①運動会の「むかし」を調べよう、小学校の「むかし」を調べよう

1学期は、大樹寺小の伝統として、30年前以上から運動会で行われている「家康の自立」について追究を行った。児童は、昔の運動会や他校の運動会を調べ、比較することにより、大樹寺小学校の運動会のよさを感じていた。

大樹寺小学校の運動会は1回見るだけで、家康のことが少しは分かる。大樹寺小学校のような学校は、日本中さがしてもなかなか見つからないようなとくべつな小学校だから大樹寺小学校にこれて本当にうれしいです。いろいろな学校のことが知れてよかったです。(資料① 児童 振り返りの感想)

また、昔の大樹寺の絵図をもとに調べを行い、現在の大樹寺小学校の全体が大樹寺の境内にあったことを知り、児童らは驚きの声を上げていた。大樹寺の中には、小さな寺がたくさんあることもつかみ、2学期以降の寺の見学への足がかりとなった。

②大樹寺小学区の「むかし」を調べよう

2学期からは、実際に学区内の寺を訪れ、自分の目で本物を見て、実際に寺の人から話を聞く活動が始まった。

大樹寺見学では、位牌堂に初めて入る児童が多く、位牌の高さがそれぞれの将軍の身長と同じ高さであることに一番関心を示していた。祖洞和尚が家康を守るために使った貫木が神様としてまつられていることで、大樹寺の陣での祖洞和尚の活躍に家康が大変感謝をしていることを児童は、読み取っていた。

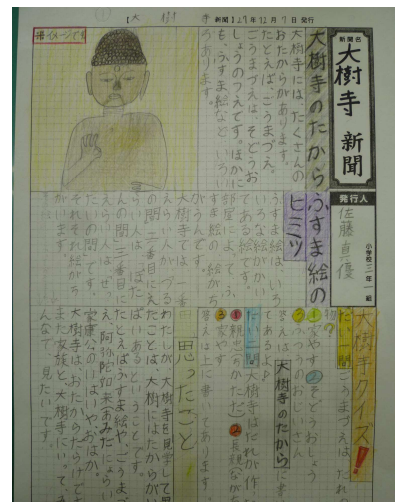
また児童がよく耳にしている「厭離穢土 欣求浄土」の言葉を大樹寺でも見付け、登誉上人が与えたこの言葉で家康が奮起し、その後の家康の活躍により平和な世の中が実現したことを改めて実感していた。

続いて、西光寺を訪れ、大樹寺の陣で亡くなったお坊さんの墓「大衆塚」や井田野の戦いで亡くなった人馬を供養する「千人塚」を見学した。大樹寺も西光寺も戦いで亡くなった人の霊を鎮めるために建てられたことを聞き、亡くなった人を大切にする寺の役割を知ることができた。

自分の目で見て調べたことは、新聞の形でまとめ、学習の成果とした。作った新聞の感想を読むと、児童が大樹寺や家康のことを誇りに思い、地域への愛着も芽生え始めていることが分かった。



写真② 大樹寺見学で家康の心を学ぶ



資料② 児童がまとめた新聞

<手立て2>児童の学びを発表する場の設定

現在進行中の実践であるが、2月にある大樹学習発表会に向けて児童は、準備を進めている。これまでに学んだことを他学年の児童や地域の方々に発表する。廊下には、学習をまとめた掲示物を貼り、発表会当日は、2年生と地域の方に対して直接、発表をする。

児童が今考えている発表方法は、劇、クイズ、紙芝居、絵本での紹介などである。グループごとに、より分かりやすく伝わるような発表の仕方を考え、話し合いを進めている。

3 実践を振り返って

野外劇「家康の自立」が30年以上も続いていることを考えることで、昔の運動会、昔の大樹寺小学校、大樹寺、西光寺という寺ができた理由といったことへと学びを深めることができた。家康の自立のきっかけとなった寺、大樹寺のことを、子どもたちは、自分にとって大切で大好きな寺と考え、誇りに思うことができた。「厭離穢土 欣求浄土」を座右の銘とし、平和を願った家康の思いも深く考えることができた。家康の生き方を参考として、自分自身の生き方を考えたり、家康のすばらしさを広めようと思ったりしている児童の前向きな気持ちを大切にして、今後も実践を続けていこうと思う。